

国際理解教育を求めて

第 62 号

令和 5 (2023) 年 3 月 1 日

発行 十勝地区国際理解教育研究会 代表 野中 利晃
担当 広報部 (鹿追町立瓜幕小学校内)

「入っていて良かった」と感じられる会か否か

十勝地区国際理解教育研究会
会長 野中 利晃
(帯広市立稻田小学校)



新型コロナウイルス感染症が世に知れ渡り 3 年が経ちました。以前は厳しかった行動制限もやや緩和され、最近は休止していた様々な会の活動も少しずつ動き出しています。そんな中、それぞれの会が「継続していく価値があるか否か」を問われるようになりました。そこで、本年度の総会では、本会が前者となるように「『会に入って良かった』と感じられる活動をしよう！」を重点目標にすることを確認しました。

在外教育施設派遣の任期を終えた教諭の「帰国報告会」や「実践報告会」、「世界のともだち 2022」への協力、「第 43 回十勝地区国際理解教育研究大会帯広大会」での緑園中学校と稻田小学校の授業公開及び研究協議、「小豆の会」や「大豆の会」の開催、これらの活動を広く発信するための広報活動等について、再度会員のニーズに応える内容へとブラッシュアップしながら実施しました。

それ故に、活動に直接関わった会員だけでなく参加された方々にとっても、自己研鑽に繋がる機会となったり、時には思い出に浸ったり、ほっとしたり、明日への活力となったりする一時になったと思います。

また、今年度は、令和 5 年度に十勝・帯広を舞台に開催する「第 44 回北海道国際理解教育研究大会十勝・帯広大会」への足場を固めた一年ともなりました。

9 月には、第 1 回実行委員会及び各部会を行いました。全道 (釧路) 大会の際には十勝帯広大会についてアピールをすることができました。1 月全道理事会での説明に対応できるようにと、研究の深化や実行委員会の組織体制の強化も進んだと感じています。それゆえに令和 5 年 11 月 1、2 日に帯広市立大空学園義務教育学校で開催する大会が楽しみなところです。

ともあれ、現在の社会は世界のどこかで何かが起こると、すぐに確実に日本の私たちの生活にも影響が及ぶほどグローバル化が進んでいます。そして、さらに進むであろう未来社会を生き抜く子どもたちにとって、国際理解教育はもっとも重要な教育の一つであると考えられます。その研究に真っ正面から取り組んでいる十勝地区国際理解教育研究会の存在価値は大きなものであることは間違ひありません。

結びとなりますが、本年度も本会の活動にご指導、ご助言を賜りました十勝教育局、帯広市教育委員会、JICA 帯広等関係の皆様にお礼申し上げ、巻頭言といたします。

事務局

事務局長 合田 真晃
(帯広市立啓北小学校)

- 4月23日（土） ○役員会 緑丘小学校
 　　・総会の開催方法検討、開催に向けた調整
 　　・研究大会の方向性検討

5月14日（土） ○総会 緑丘小学校とオンラインによるハイブリッド開催
 　　会長 野中 利晃 帯広市立稻田小学校 校長
 　　副会長 稲葉 珠樹 音更町立柳町小学校 校長
 　　〃 河井 義徳 幕別町立明倫小学校 校長
 　　〃 小室 彰人 士幌町立士幌中央中学校 校長
 　　〃 笠松真一郎 豊頃町立豊頃小学校 校長
 　　〃 牧 伊津子 中札内村立中札内小学校 校長
 　　研修部長 越智 卓 音更町立柳町小学校 教頭
 　　研究部長 益子 忠行 音更町立鈴蘭小学校 教頭
 　　組織部長 古村 俊大 帯広市緑園中学校 教頭
 　　広報部長 佐々木敦史 鹿追町立瓜幕小学校 教頭
 　　事務局長 合田 真晃 帯広市立啓北小学校 教頭
 　　事務局次長 新井 英樹 帯広市立啓北小学校 教頭
 　　〃 多田 明寿 新得町立屈足中学校 教頭
 　　〃 岩崎 直希 帯広市立稻田小学校 教頭
 　　会計 野田 剛 清水町立清水小学校 教頭
 　　〃 森田 泰成 帯広市立豊成小学校 教頭
 　　監査 猪股 宏亮 幕別町立古舞小学校 校長
 　　〃 森本 聰 本別町立本別中央小学校 校長

○第1回役員会 総会終了後

5月18日（水） ○大豆の会（川上校長、野中校長）

5月27日（金） ○関係機関への挨拶（野中校長、合田）
 　　・帯広市教育委員会 ・十勝教育局 ・JICA 帯広

5月23日（月） ○大豆の会（佐藤校長、橋場校長、村松校長、野中校長）

5月30日（月） ○大豆の会（野中校長、稻葉校長）オンライン開催

6月15日（水） ○大豆の会（川上校長、上坂校長、野中校長）オンライン開催

6月27日（月） ○第2回役員会 Zoom 開催
 　　・第43回十勝地区国際理解教育研究大会帯広大会の開催について検討
 　　・各部活動計画確認
 　　・「世界のともだち2022」の確認

7月 8日（金） ○第43回十勝地区国際理解教育研究大会帯広大会会場校への挨拶
 　　（野中校長、稻葉校長、合田）

10月20日（木） ○第3回役員会 オンライン開催
 　　・第43回十勝地区国際理解教育研究大会帯広大会のハイブリッド開催の決定
 　　※大会当日までに各部と会場校とで連携をとりながら準備を進めることを確認

10月28日（金） ○第43回北海道国際理解教育研究大会釧路大会
 　　（野中校長、閉会式において次期開催地挨拶）

11月15日（火） ○第43回十勝地区国際理解教育研究大会帯広大会
 　　【授業公開】
 　　・「SDGsについて考える」 6年 総合的な学習の時間
 　　帯広市立稻田小学校教諭 慶長 宏之（ドバイ日本人学校） 重堂 真也

・「日本の諸地域 関東地方」 2年 社会科

　　帯広市立緑園中学校教諭 長内 直樹

【実践発表】

・帯広市立帯広第四中学校教諭 西岡 正博

・鹿追町立鹿追小学校教諭 長屋 裕美

12月 9日 (金) ○第4回役員会

　　・第43回十勝地区国際理解教育研究大会帯広大会の反省

1月 6日 (金) ○北海道国際理解教育研究協議会 理事総会・研修会 (JICA 札幌)

2月 ○第5回役員会議

3月 ○派遣教員激励会 (激励訪問に変更予定)

○会誌「国際理解教育を求めて」第62号発行

研究部

研究部長 益子 忠行

(音更町立鈴蘭小学校)

○ 活動経過報告

(1) 9月29日 (木) 第1回研究部会

- ・ 第43回十勝地区国際理解教育研究会帯広大会の学習指導案に係る協議・検討について
- ・ 令和4年度研究概要について
- ・ 第43回十勝地区国際理解教育研究大会帯広大会の日程の確認について

(2) 11月7日 (月) 第2回研究部会

- ・ 第43回十勝地区国際理解教育研究大会帯広大会の学習指導案に係る協議・検討について
- ・ 第43回十勝地区国際理解教育研究大会帯広大会に係る運営等の確認について

(3) 11月15日 (火) 第43回十勝地区国際理解教育研究大会帯広大会

① 公開授業1

- ・ 授業者 慶長宏之 (帯広市立稻田小学校)
- ・ 教材 総合的な学習の時間
- ・ 題材 SDGsについて考える
- ・ 学年 6学年

② 公開授業2

- ・ 授業者 長内直樹 (帯広市立緑園中学校)
- ・ 教材 社会科 (地理的分野)
- ・ 題材 日本の諸地域
- ・ 学年 2学年

○ 令和4年度研究概要について

(1) 研究主題 (3年次計画の2年目)

多様な世界に関わり続ける行動力を身に付けた児童生徒の育成

～世界と関わり何ができるかを考え、主体的に行動する学びの創造～

(2) 国際実践力の育成を目指して

- ・ 問題が複雑化・高度化し「決まった正解」がない社会では課題を共有する人同士で試行錯誤し、身に付けた知識や技能を活用・発揮しながら、納得解や最適解を創り上げ解決していくことが大切である。「世界に対して何を知っているか」だけではなく「世界に対して何ができるか」「他者と協働して、いかに問題解決を行うことができるか」を学びのゴールとし、世界と様々な形で関わる授業づくりを通して、国際実践力を育成する。
- ・ 十勝地区国際理解教育研究会では、国際実践力を育成するための各活動を、intake活動・output活動・outcome活動と位置付けるとともに、output活動・outcome活動の改善・充実を図りながら、「いつでも、どこでも、だれでもできる国際理解教育」という原点に立ち返りつつ、授業づくりを実践する。

研修部

研修部長 越智 卓

(音更町立柳町小学校)

○ 活動経過報告

(1) 9月12日(月) 第44回北海道国際理解教育研究大会十勝・帯広大会 第1回実行委員会

- ① 第43回十勝地区国際理解教育研究大会帯広大会研修部の業務内容確認
- ② 海外事情報告会の運営内容確認

(2) 11月15日(火) 第43回十勝地区国際理解教育研究大会帯広大会

- ① 実践発表会の運営

発表者・・・西岡 正博教諭(帯広市立帯広第四中学校・元ホーチミン日本人学校)
長屋 裕美教諭(鹿追町立鹿追小学校・元リマ日本人学校)

司会者・・・山口 幸吉教諭(浦幌町立浦幌小学校)

- ② 研究会封筒印刷、駐車場誘導、弁当引き換え等

(3) 12月3日(土) 海外事情報告会・交流 (JICA 北海道(帯広))

- ① 報告会の運営

発表者・・・斎藤 隆広教諭(帯広市立啓北小学校・元ミュンヘン日本人国際学校)
三上有希子教諭(帯広市立柏小学校・元ブリュッセル日本人学校)

司会者・・・川上 光陽教諭(帯広市立若葉小学校)

- ② 交流会の運営

○ 今年度の活動をふりかえって

- ・コロナ禍で研究大会や報告会が中止になることがあったが、オンラインや感染症対策を講じた参考形式などを取り入れながら開催することで、帰国者の貴重な実践を共有することができた。
- ・ここ数年で新会員も増え、部の活動でも若い会員が積極的に協力してくれており、大変心強く感じている。
これからもこの結束を大事にしたい。

組織部

組織部長 古村 俊大

(帯広市立緑園中学校)

○ 「世界のともだち 2022 (NGO ブース)」

久しぶりに開催され、ブースを出展。在外施設派遣を経験した教員による『世界で学ぶ子どもたち』と題してパネル展示を行った。

今年度は13校の様子をまとめ、展示した。



○「国際理解教育研究大会展示ブースの開設」

研究会において、児童生徒への還元として授業内容に沿った国・地域の文化に触れるような展示物(『布』『楽器』『玩具』『衣装』など子どもが実際に手で触れられるもの)によって世界に触れることを目的に、今年度は中学校会場に『世界の衣装』を展示した。

また、教員の授業へのアイディアの提供を考え、JICA 帯広から『開発教育教材』の展示を行った。

○「会員数拡大と情報提供」

事務局および広報部との連携により会員数の拡大を目指し、国際理解教育への関心を持つ教員へのより良い情報提供を推進していく。

広報部

広報部長 佐々木敦史

(鹿追町立瓜幕小学校)

○ホームページのリニューアル

ホームページをリニューアルし、アイキャッチ画像を多く使い、世界への興味を引くデザインに更新した。来年度は全道大会も予定されているので、十勝地区国際理解教育研究会の活動を広く知ってもらうために効果的に活用していきたい。

○ホームページの活用

来年度の全道大会を見据えた第43回十勝地区国際理解教育研究大会帶広大会では、授業や開閉会式、研究協議、実践協議の YouTube ライブ配信が行われ、ホームページ上にリンクを貼り学習指導案やワークシートデータをダウンロードができるようにした。現在は、アーカイブとして授業と開閉会式の YouTube 動画も見ることができる。

○本会の活動をホームページで周知

ホームページで定期総会、研究大会、海外事情報告会、小豆の会、世界のともだちの活動報告ができた。

○広報誌「国際理解教育を求めて」62号の発行

今年度も各学校へはデータで、各教育委員会へは紙媒体で配布する。



【十勝地区国際理解教育研究会ホームページ】

○『国際理解教育を求めて』第62号をお届けします。今年度も紙媒体ではなくデータでお送りしますので、よろしくお願ひいたします。

○第43回十勝地区国際理解教育研究大会帶広大会では、来年度に予定されている第44回北海道国際理解教育研究大会十勝・帯広大会を想定して YouTube ライブ配信やホームページでの学習指導案・ワークシートのダウンロードを実施し、役員会議で成果と課題を検証しました。スリム化や効率化を図り、より多くの方々に参加していただける大会を目指していきます。

○世界情勢は戦争や新型コロナウイルスで混迷を極める状況が続いているが、将来が見通せないこれからの中学校で主体的に行動できる子どもたちを育成するために、十勝地区国際理解教育研究会の活動を充実させていきたいと思います。